

日本臨床薬理学会海外研修員報告書

－研修経過報告書 第3報－

島本裕子

Department of Clinical Pharmacology & Toxicology

The Hospital for Sick Children

1. はじめに

カナダ，トロントの Division of Clinical Pharmacology & Toxicology, The Hospital for Sick Children (SickKids)において伊藤真也先生のご指導の下，research fellow として2018年4月から研修を開始し，1年6か月が経過しました。

2. 研修内容

現在私は，病態が薬物の体内動態に及ぼす影響についての臨床研究を継続して行っています。研究開始当初は研究計画書の ethical review board (ERB) での承認，倫理講習の受講，カルテ閲覧や研究用データベースを使用するための手続きから始めましたが，その後カルテからのデータ収集を行い，そのデータを基にして母集団薬物動態解析ソフトである NONMEM を用いた解析を開始しました。

2019年5月には Canadian Society of Pharmacology and Therapeutics 2019 Annual Conference (カナダ臨床薬理学会) において本研究での薬物動態モデルの構築について発表を行い，Travel Bursary の交付対象演題に選出されました。本学会ではカナダ国内から集まった臨床薬理の専門家の先生方と発表内容について discussion することができ，加えてどのような点に留意してデータ解析を進めるべきか，アドバイスをいただくこともできました。

また，NONMEM による薬物動態モデルの構築とシミュレーションによる推奨薬物投与量の算出を行うため，米国の Cincinnati Children's Hospital Medical Center において2週間の研修をさせていただきました。Dr. Alexander Vinks が Director を務められる Division of Clinical Pharmacology では，pharmacometrics の手法を用いた小児における母集団薬物動態解析の実績を数多く有しており，本研修では専門家にアドバイス・ご指導いただきながらデータの解析を進めることができました。ベースモデルの構築に始まり，covariates を組み込んだ薬物動態モデルの検討を進める上で，小児特有の検討すべき多くの点について，考え方や手法を専門家の持つ豊富な経験と知識に基づいてアドバイスいただくことができました。時間が限られていたため

連日夜遅くまで作業をしていたのですが、窓の外がすっかり暗くなった中、自身の持つ仮説がモデルとして形になった時の知的興奮は最も深く記憶に残っています。

その後はトロントに戻り、モンテカルロシミュレーションによる推奨投与量の検討を進め、現在は論文化を目指して作業を続けています。

3. トロントで迎えた改元

2019年5月には、平成から令和への改元をトロントで迎えることとなりました。カナダ人の方々との会話でも日本の新天皇即位や新元号について触れられることがあり、日本の文化や伝統について思いを新たにす、良い機会となりました。トロントの大きな公園である **High Park** には1959年に東京都から贈られた桜のソメイヨシノが多く植えられているのですが、今回、ここでは桜の寄贈60周年記念と天皇陛下の御即位を祝賀して、新たに桜の記念植樹が行われました。

また、9月には日本とカナダ両国の相互理解及び友好親善に多大に尽力されたとして、指導教官である伊藤真也先生が令和元年度の外務大臣表彰を受けられました。Division head である伊藤先生への日本からの表彰は、私たち division のメンバー全員、大変うれしく、そして誇りに思っています。

4. 終わりに

5月中旬に桜が咲いたと思ったら、9月初旬にはちらほらと紅葉が始まりました。トロントはこれからまた長く、厳しい冬を迎えることとなります。私にとっては2度目のトロントでの冬ですが、健康に留意しつつ、いつも新しいことに感動することを忘れることなく、楽しみながら冬を乗り越えていきたいと思います。